

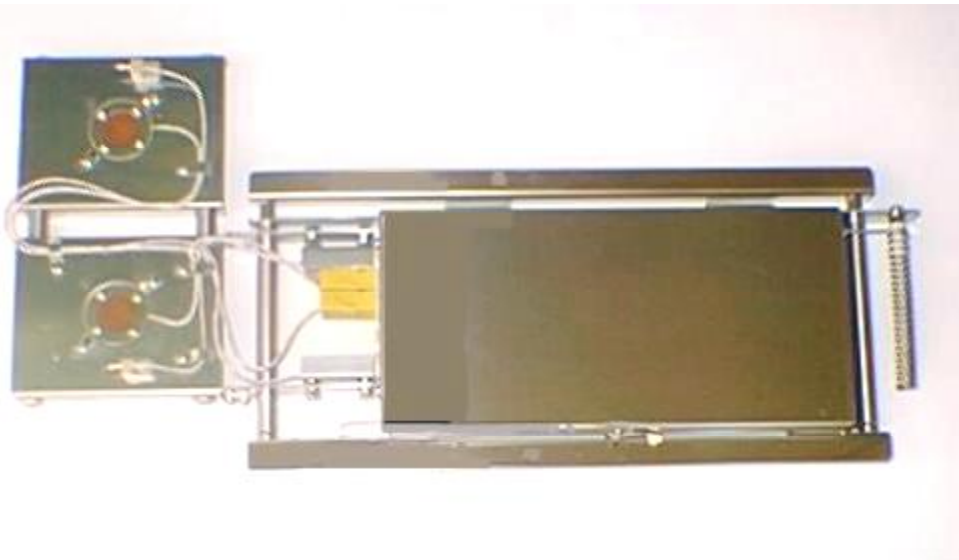
リフロー炉用温度治具 THERMO JIG

鉛フリー半田を使用の場合は、特に温度管理が大切です。

多種類のプリント基板を生産するリフロー炉の温度管理は、日常的に神経を使うものです。鉛フリー半田を使用する場合は、一層注意深い温度管理が必要となります。本温度治具は、本治具は、リフロー炉内の温度プロファイルを毎回同じ規格化された治具を用いて測定することを目的としております。従って、リフロー炉を用いてプリント基板のハンダ付けを行う場合、毎回実基板を用いて温度条件出しの作業を行うことなく、リフロー炉の温度管理が行えます。

特 長

1. 多種類の基板を1台の本温度治具で管理できるので合理的。
2. 従ってセンサを取り付けた、多種類の温度計測用基板を保存管理する必要がなく、省資源、省力化に大きく貢献する。
3. 温度計測用基板は、多数回使用すると変質を来し、測定値に正確さを欠いてくるが、本治具ではそれが少ない。
4. 本治具の測定部は、モジュール化されているので、変換が必要な場合、簡単に行える。
5. センサは、基板面、又は基板面上方の熱風雰囲気との2ヶ所を計測することができる。
6. リフロー炉の日常的なチェックも手軽に行える。

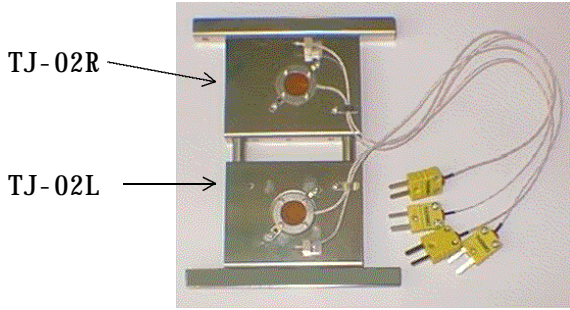


データ送信機RTS-555/6との直結型（A型）

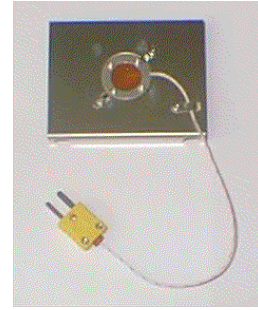
使用方法

新機種基板のリフロープロファイルが決定されたら、データ送信機と直結された本機を、炉内通過させ、データをリアルタイムでパソコンに表示すると同時に保存します。この保存されたデータが、その基板の標準プロファイルとなります。こうして、多種類の基板の標準プロファイルがパソコンに蓄積されます。以後、ある基板のプロファイルの確認は、この温度治具を用いて計測し、蓄積されているその基板データと比較するところにより、判断することができます。

仕様



独立型 (B型)



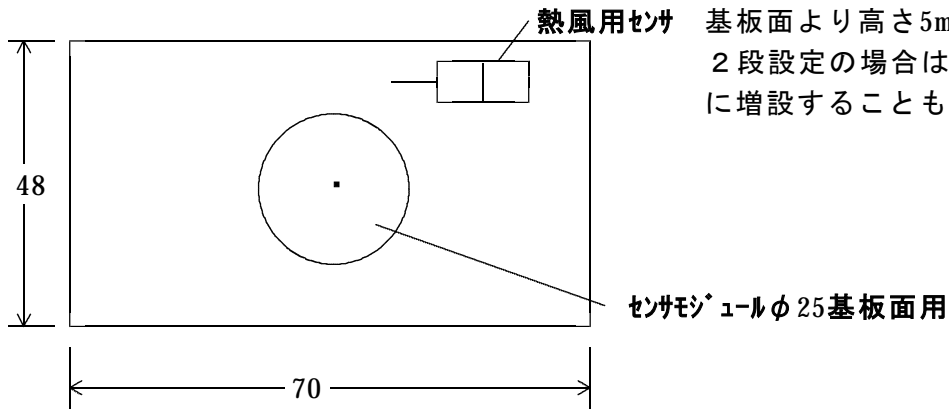
センターユニット TJ-01C

型式	センサ数	センサユニット寸法	基板面用モジュール径	センサ数 (CH数)		ユニット間伸縮巾	
				基板面用	熱風用	最小	最大
TJ-01R	1	47×70	φ25	1	0	100	275
TJ-02R	2	47×70	φ25	1	1	100	275
TJ-01L	1	47×70	φ25	1	0	100	275
TJ-02L	2	47×70	φ25	1	1	100	275
TJ-01C	1	47×70	φ25	1	0	—	—
TJ-02C	2	47×70	φ25	1	1	—	—

(注) A型：データ送信機RTS-555/6直結型

B型：独立型、データ送信機と約30cm離してケーブル接続

C型：センターユニット、基板巾が広い場合、中心部を計測する増設用。



使用センサ K型熱電対φ0.2ガラス繊維被覆

※このカタログは、改良の為予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承下さい。



〒183-0005 東京都府中市若松町2-37-2
 TEL: 042-3697101 FAX: 042-369-7104
 E-mail: mail@micro-com.co.jp
 http://www.micro-com.co.jp/

●信頼の代理店